



|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 北海道の米生産費                                                                          |
| Author(s)        | 川村, 琢                                                                             |
| Description      | 研究                                                                                |
| Citation         | 北海道帝國大學法經會法經會論叢, 10, 169-176                                                      |
| Issue Date       | 1942-06                                                                           |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/10714">https://hdl.handle.net/2115/10714</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 10_p169-176.pdf                                                                   |



# 北海道の米生産費

川 村 琢

米價の問題が強く叫ばれた時代から米價決定の有力な資料として米の生産費の調査が實施せられてゐる。米價に對して生産費がどれだけ決定的なものであるか、又生産費の内容は現在農林省や帝國農會で採用せられてゐる項目でいゝものかどうか、或はこれを通して米作農家の經濟的性格はどうかと云ふことはこゝでは問題としない。けれども調査農家が米を生産する場合の實際の出費や労働をこの生産費は約束された様式に従つて表現してゐると云ふ點では間違のないところであつて、地域的な各個々の農家の生産事情を知る意味に於て有力な資料を提供するものであることは云ふまでもない。限られた農家戸數と限られた農家の生産内容から、これで以てその地域の全農家の生産上の状態をよく傳へられるかどうかは疑問であるが、農家の選定がほゞその地域の中流農家であるといふことで満足するより外はない。

この調査に於て地域的に同一作物に對する労働の生産性や、その生産に於ける各種の事情が露呈されてゐて興味深し。

二

帝國農會の調査によれば昭和十二年事變勃發の年から、十四年に至るまでの全國及び北海道の自作者の石當生産費は次の如くである。

一 石當生産費（自作者）

| 年     | 全國                     |                        | 北海道                    |                        |
|-------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
|       | 反當收量                   | 反當生産費                  | 反當收量                   | 反當生産費                  |
| 昭和十二年 | 二、五〇七 <small>石</small> | 七一・七五 <small>円</small> | 二、〇四一 <small>石</small> | 五二・七一 <small>円</small> |
| 十三年   | 二、四九九                  | 七八・六七                  | 二、一七三                  | 五八・七九                  |
| 十四年   | 二、六四一                  | 九三・四七                  | 一、八五九                  | 六九・七六                  |

事變以來北海道は全國と比較して石當生産費は最初の二ケ年に於ては少く、十四年度に於ては大である。この理由は次に示す如く、反當收量の増減と反當生産費の増加とによるものである。

反當收量及生産費

| 年     | 全國                     |                        | 北海道                    |                        |
|-------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
|       | 反當收量                   | 反當生産費                  | 反當收量                   | 反當生産費                  |
| 昭和十二年 | 二、五〇七 <small>石</small> | 七一・七五 <small>円</small> | 二、〇四一 <small>石</small> | 五二・七一 <small>円</small> |
| 十三年   | 二、四九九                  | 七八・六七                  | 二、一七三                  | 五八・七九                  |
| 十四年   | 二、六四一                  | 九三・四七                  | 一、八五九                  | 六九・七六                  |

十四年度に於ける生産費の内容を見よう。次の如くである。

一石當生産費（十四年度）

全 國

北 海 道

直接的生産費

|      |                   |                   |
|------|-------------------|-------------------|
| 種子費  | 〇・三七 <sup>円</sup> | 一・四一 <sup>円</sup> |
| 肥料費  | 六・〇三              | 七・〇五              |
| 労働賃銀 | 一三・六〇             | 一五・四五             |
| 諸材料費 | 一・一五              | 一・三三              |
| 畜力費  | 一・七二              | 三・六七              |
| 計    | 二二・八七             | 二八・九一             |

間接的生産費

|        |       |      |
|--------|-------|------|
| 土地改良費  | 〇・〇五  | 〇・〇三 |
| 農具費    | 一・三四  | 一・三七 |
| 建物費    | 〇・八二  | 一・八〇 |
| 租税     | 二・四七  | 二・二二 |
| 土地資本利子 | 七・八二  | 三・三〇 |
| 計      | 一二・五〇 | 八・六二 |

一石當生産費（副収入ヲ除ク）

三一・八三

三五・一五

（備考）全國ニ於ケル石當副収入ハ三・五七圓、北海道ハ二・三七圓）

直接的生産費に於て全國より北海道は約六・〇三圓多く、間接的生産費に於て全國が三・八八圓多い。副収入を差引き、石當生産費は北海道が三・三二圓大である。全國に於ても亦北海道に於ても直接的生産費中最大なるものは労賃であり、次いで肥料である。間接的生産費に於て最大なるものは土地資本利子である。これ等に於てわ

が國農業の生産事情が端的に示されてゐることは既に諸家によつて指摘せられてゐる如くである。

唯北海道に於ては土地資本利子が畜力費よりも少であり、全生産費の八%に過ぎないが、全國に於ては二二%に及んでゐる。これがとりもなほさず間接的生產費に於て逆に北海道が少額である根據である。

直接費に於て北海道が大であるのは勞賃、畜力費、肥料費、種子費の大なる爲めである。勞賃は併し北海道に於て投下勞働延日數の大なる爲めではなく勞賃の高い爲めである。一石當必要な勞働日數は北海道六・四日に對し、全國は八・一日である。

畜力費も同様である。畜力使役日數が北海道一石當〇・六日に對し、全國〇・七日であるにも拘らず、費用の多いのはその價格の高い爲めである。

肥料は北海道に於て自給肥料の大なることが肥料總額を大ならしめてゐる。自給肥料の大なることは北海道の家畜の存在にかゝる堆厩肥の大なる爲めであり、恵れざる自然條件に對處する必要を意味するものである。

種子の費用は北海道は全國の三倍に近い。北海道に於ては直播が壓倒的に多く、反當收量の少いにも拘らず播種量は三倍となつてゐる。

以上のこれ等の諸費用は等しく北海道に於て大であり、従つて直接的生產費を大ならしめる要素であるが、併し上述せる如く種子の費用を除けば勞働量にしろ、畜力の使役日數にしろ實質的には全國より少い。むしろ勞働の生産性から見れば、一人一日當の生産金額は北海道五・五三圓に對し、全國は五・四九圓であり、現物に於て北海道一人一日當一斗五升の生産割合に對し全國一斗二升であると云ふ意味から、むしろ北海道の生産技術が進んでゐると云ふことが出来るであらう。

間接的生產費については北海道が少いことは既に明かにした如くであり、この最も中心をなす土地資本利子に

於て北海道は全國の約二分の一に過ぎない。建物、農具等に於て北海道が幾分多いとしても全體的には殆んど影響なく、これ等の費用の多いことはむしろ生産設備のよりよきことを意味するものであらう。

四

昭和十三年及び十二年に於ける北海道並びに全國の生産費の内容は次の如のである。

昭和十二、三年度米生産費（自作）

|                 | 全 國   |       | 北 海 道 |       |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|
|                 | 昭和十三年 | 昭和十二年 | 昭和十三年 | 昭和十二年 |
| 直接的生産量          | 一八・〇一 | 一五・九〇 | 二〇・二四 | 一八・三六 |
| 粒 子 費           | 〇・三四  | 〇・三二  | 〇・九四  | 一・二五  |
| 肥 料 費           | 五・三八  | 四・八九  | 六・三九  | 五・五五  |
| 勞 賃 費           | 一〇・一二 | 八・八六  | 九・六七  | 八・九一  |
| 諸 材 料 費         | 一・二六  | 一・〇八  | 二・一一  | 一・七六  |
| 畜 力 費           | 〇・九〇  | 〇・七五  | 一・一六  | 〇・八九  |
| 間 接 的 生 産 費     | 一三・四六 | 一二・七二 | 六・八九  | 七・四六  |
| 土 地 改 良 費       | 〇・〇四  | 〇・〇六  | 〇・〇七  | 〇・〇二  |
| 農 具 費           | 一・〇二  | 〇・八九  | 一・二八  | 一・〇八  |
| 建 物 費           | 〇・六九  | 〇・六九  | 〇・九一  | 一・二二  |
| 租 稅             | 二・四六  | 二・六九  | 一・三八  | 一・五七  |
| 土 地 資 本 利 子     | 九・二五  | 八・三九  | 三・二三  | 三・五七  |
| 一石當生産費（副収入ヲ差引ク） | 二八・四五 | 二五・八七 | 二四・八二 | 二三・三〇 |

北海道の米生産費

昭和十三年度及十二年度に於ても全國並びに北海道の米の生産費を比較して直接的生産量に於て北海道が大であり、間接的生產費に於て北海道が少である點に於ては變りはない。而も直接的生產費中、既に述べたる如く種子費、肥料費に於て北海道が大であるが、勞賃、畜力費に於ては十三年度に於て北海道大であるにも拘らず、十二年度はむしろ少である。一石當勞働日數は昭和十三年及十二年に於ても北海道少であり、畜力使役日數に於ても同様である。

間接的生產費に於ける土地資本利子の占むる地位は、既述せる昭和十四年度と同様全國に比較して北海道が著しく低く、建物費及び農具費が幾分北海道は大なるにも拘らず、全體として間接的生產費をして北海道を少なからしめてゐる。

勞働の生産性、一人一日當勞働の收量及び生産價格に於て北海道は昭和十三年及び十二年に於ても大であることは云ふまでもないところであり。その基礎も既に述べたところで以てつきる。

## 五

小作の場合を見よう。一石當生産費は次の如くである。

| 石當生産費（小作、昭和十四年度） |  | 全國    | 北海道   |
|------------------|--|-------|-------|
| 直接的生産費           |  | ○・三五  | 一・一八  |
| 種子費              |  | 五・六四  | 六・五七  |
| 肥料費              |  | 一三・二七 | 一四・七七 |
| 勞賃               |  | 一・〇七  | 一・一七  |
| 諸材料              |  |       |       |

|               |       |       |
|---------------|-------|-------|
| 畜力費           | 一・四八  | 三・四九  |
| 計             | 二一・八二 | 二七・一九 |
| 間接的生産費        |       |       |
| 土地改良費         | 〇・〇一  | 〇・〇三  |
| 農具費           | 一・一六  | 一・四〇  |
| 建物費           | 〇・六三  | 〇・九二  |
| 租稅            | 〇・四七  | 〇・三三  |
| 小作權           | 〇・一七  | 〇・一九  |
| 農用建物敷地並稻作用乾場  | 〇・一五  | —     |
| 小作料           | 一六・一五 | 一〇・九六 |
| 計             | 一八・七五 | 一三・八二 |
| 石當生産費(副収入ヲ除ク) | 三六・九五 | 三八・二〇 |

(副収入全國ニ於テハ三圓六二錢、北海道ハ二圓八十錢)

小作の場合に於ても自作の場合と同様であることは前に掲げた諸表から讀みとることが出来る。唯小作の場合には全國に於ても北海道に於ても自作に於ける土地資本利子よりもその額が大であり、特に北海道に於て大である爲めに全國との差異が縮少されてゐる。水田に於ては北海道に於ても土地の負擔が大きい。昭和十二年度、十三年度も同じである。小作に於ても一石當生産に要する勞働日數は北海道六・二日であるに對し全國は七・六日であり、勞働の生産性は北海道が高い。

## 六

北海道の米生産費は豊凶の如何によつて全國平均に比較して大となり又小となつてゐるが、生産費の内容たる

各費目のうち土地資本利子及び小作料が著しく低廉であるが爲めに、其他の費目が全國平均と比較して大であるにも拘らず全體として全國との差異が縮小されてゐるのである。而もこの土地關係の費目を除いた其他の費目中主要なるものとして肥料及び勞賃は自給肥料の多いこと、家族勞働時間の少いことの爲め實質的には全國と比較して少いことを指摘した。そしてこの勞働時間の少いことは本當は北海道に於ける勞働の生産性が高い爲めであり、これは又種子費、農具費、建物費等の小額であるが多いこと換言すれば、投下資本部分の多いこと、相まつて北海道の生産上の合理性を意味するものと云ふことが出来る。むしろこれ等の資本を利用してより多くの生産物を生産する勞働の技術のすぐれてゐることが又高い勞賃の基礎ともなり得ると云へるかも知れない。

北海道に於ては農期間短く、氣候が寒冷であるために、水田の收穫をこの程度まで高めることは非常に困難であつた。品種の改良、土壤の改良、病害蟲の防除があらゆる機關を總動員して試験研究せられると共にその普及になみたいていでない努力が傾注されて來てゐるのである。併しながら限られた少い家族勞働力で以て短い期間にこの作業を遂行し得たものは周知の如く畜力―馬―による耕耘と、直播とに負ふてゐることは云ふまでもないところである。現實的にこの關係が主として勞働力の異常な節約となつてゐるのである。けれども其他の作業、除草、收穫、特に除草に於ては決して充分に勞働の合理化が行はれてゐるわけではない。直播が多量の種子を用ひながら收量の上で不充分であることや、更に限られた期間に勞働が集中化すること等も改善されなければならぬ。これに對して直播と普通苗代、冷床苗代との結び合せによる勞力配分の合理化や、除草に於ける畜力機の採用による勞力の節約とが試みられてゐる。勞働の生産性の向上は即ち低生産費の基礎であり、戦争による勞働力の不足は北海道の稲作に對しても更に勞働力の生産性の強化を要求してゐる。そしてこの爲めのあらゆる努力が過去に於て示した合理性への努力の傳統の下で個々の農家に於て實踐されてゐるのである。